

ジャパン・クラウド・コンソーシアム 健康・医療クラウドWG

第4回ミドルウェアSWG／第2回インフラSWG 議事録(案)

■日時：2012年12月13日(木) 13:15～15:00

■場所：KDDI 飯田橋 GAT 27K 会議室

■ミドルウェア・インフラ SWG 確認事項

・目次は以下のとおりとする。

- ・1章 はじめに
- ・2章 サービス提供基盤における課題
⇒1章／2章は過去の経緯と課題認識
- ・3章 日本の医療情報システムにおける動向、
- ・4章 海外の医療情報システムにおける動向である。
- ・5章 課題に対する方向性
⇒JCC 健康・医療クラウドWG としてのまとめ
- ・6章 おわりに
⇒謝辞

■次回アクション（幹事会社／事務局／コアメンバー）

・本日頂いた指摘事項を反映させ、12月14日(金)中に展開する。

■内容

1) 目次構成/1章～4章の概要説明（事務局／幹事会社）

・前回11月2日のSWG確認事項に沿って、健康・医療情報システムの動向をホワイトペーパーにまとめる作業を行ってきた。SWGの有志、主幹事、事務局のメンバーを中心に医療情報学会での情報も含めドキュメントを作成し、有識者にレビュー頂くという進め方を行った。

・目次構成は以下の通りとしたい。

- ・1章2章は、過去の経緯と課題認識である。
- ・3章は日本の医療情報システムにおける動向、
- ・4章は海外の医療情報システムにおける動向である。
- ・5章は課題の方向性（JCC 健康・医療クラウドWG としてのまとめ）
- ・6章は謝辞

→これらの目次および5章以外対して特に異議無し（メンバーより特段コメント無し）

2) 課題の方向性に関する議論

5章「課題に対する方向性」に関して、幹事会社より説明を行い、議論させて頂いた。

■PHR と EHR からのアプローチ

・ PHR からのアプローチと EHR からのアプローチの違いがわからない。(村元様)

→PHR/EHR のどちらのアプローチでサービス基盤を構築していくかと言うのは論点ではないと思う。二次利用を推進する上で、どのようなデータを集め、どう使っていくか、その基盤をどう作っていくか、というのが論点であろう。(北岡先生)

→ちなみに、今既に(北岡先生が関与する)科研費の中で、PHR と EHR を統合する際の検討が進んでおり、PHR と EHR のどちらから作っていくかと言う話は既に検討が進んでいると言う認識だ。(北岡先生)

■図表 5-1 に対するコメント①：個々のご指摘(北岡先生)

・本クラウドで扱おうとしているデータは、サービス編で記載されていたように、EHR 側のデータ(検査結果などの診療情報など)ではないという認識だ。

・従って、今回の WG にて検討すべき対象のデータソースは、個人のライフログにある。それは、一般的に PHR とカテゴリズされている仕組みの配下にある。

・その PHR のデータを収集するために、体重計、体脂肪計、万歩計、フィットネスセンターの機器などがあり、その接続方式として、国際標準 Continua がある。そこで蓄積されたデータを二次利用する。といったことをこの図では表現すべきではないか。

・そのために、次のような修正を行うべきではないか。

→個人が情報の利活用を承認できるような仕組みを記載すべきではないか。

→収集情報を誰が二次利用できるのかといった、アクターの記載も必要ではないか。

→今回のホワイトペーパーは、JCC というクラウド事業者向けのホワイトペーパーであり、データをゲートウェイ(PC やスマホ)にローカル保存する・しないという議論は不要で、データはクラウドに保存することが前提だと想定される。現行、ゲートウェイにローカル保存すると言った表現に見えてしまうため、表現の修正が必要であると思われる。

→お薬手帳、糖尿病連携手帳が、図に出てくるけれども、これはデータの見せ方(ビュー)の話であり、蓄積する話ではない。(北岡先生)

→図は、データを蓄積する図だと思っていたが、そうでなくビューの話もでてくるのであれば、蓄積する部分と閲覧できる部分(ビュー)を分けてもよいのではないか。(茗原様)

→どこでも My 病院の話は、個人のデータを個人が自分自身のために利用する、一次利用目的の話だ。どこでも My 病院構想はデータの一次利用の話であり、データの二次利用を検討する今回の WG の話に混ぜずに、分けて考えた方がよいのではないか。つまり、どこでも My 病院構想の話は、本図に記載するべきではないと思われる。(北岡先生)

→EHR の部分の詳細を書くともしろ混乱するので、SS-MIX 標準化ストレージといった記述は不要ではないか。(北岡先生)

■図表 5-1 に対するコメント②：誰の視点で資料をまとめるか

・誰の視点で資料をまとめるかで表現すべき内容が決まってくるのではないか。次のような2つの視点があると思われる。(北岡先生)

1) サービス提供事業者の視点で、二次利活用していくという視点でまとめる。

その場合、現状、二次利用のプレーヤー（アクター）が図に示されていない。

これらを実現しようとする、シングルサインオンで、SAML 認証を実施して～、といった仕組みが理想論であると思われるが、そういう概念図もあっていいのではないか。

その際に、ビッグデータを、①作る②使う、ということになるが、現在の世の中の動向からして、①作るというフェーズなので、収集の仕組みに重点を置く記述の方が現実的かも知れない。

2) 利用者視点でまとめる。

こちらのまとめ方であれば、

データをどこで蓄積（エントリー）して、どこで（ビュー）するのか、それぞれを分けて書いた方が良いと思われる。

→アクターを追加し、どこでも病院部分を削除し、エントリー+ビューの視点を追加する方向で進めたい。(KDDI)

■標準 I/F と独自 I/F

・非 Continua と記載している意図は何か。(日比野様)

→Continua だけに対応するのではなく、Continua に対応していないデバイス（非 Continua デバイス）にも対応した方が、利用者により優しい・使い勝手のいいサービス基盤になるであろうということで、記載した。(KDDI)

→標準 I/F としての Continua があり、かたや独自 I/F がある、というのを図で識別できるよう表現すれば良いのではないか。将来的に、独自 I/F が標準 I/F にも対応していくことを期待する、と言ったニュアンスを込めると良いのではないか。(茗原様)

■タイトル修正

・図表 5-1、現行の図のタイトルが、システム基盤イメージとなっている。そうではないので、タイトルの変更が必要。むしろシステム基盤イメージを書いたら、パワポの P.11 の資料等を掲載すべきであろう。(北岡先生)

■ビッグデータ化時の課題

・クラウドがビッグデータになった時、スケール上の課題なども出てくる。そういったビッグデータ化の課題も盛り込んだ方がいいのではないか。(白石様／川畠様)

→今回はむずかしいかも知れないが、宿題とさせて頂く (KDDI)

■標準化の必要性

・データ標準化の箇所、医療 ID 等について触れているが、ここではあまりではないのではないか。匿名化されたデータを二次利用していくということを想定すると、より重要なのは、ポキャブラリーやコード体系を合わせていくこと、であると思われる。その方がよりわかりやすく、今回のホワイトペーパーの方向性には合うのではないか。(茗原様)

■データ項目の追加

・P. 63 の文章の半ば以降にある、健康・医療領域のデータの部分で、検診結果が無い。このデータの利用は必須であろうから、追加しておいた方がよい。(茗原様)

■今後のホワイトペーパーについて

・ホワイトペーパーは生き物である。このため、ホワイトペーパーには、最終的に目指す方向性を記載した上で、今後バージョンアップを重ねて行けば良いのではないか。(北岡先生)

■次回アクション

・明日を目途に関係者に資料を展開する。(KDDI)

以上